

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
那須塩原市	西那須野地区（二区町）	令和3年3月26日	令和3年12月27日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	261ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	234ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	70ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	47ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	8ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	35ha
(備考)	

注1：③の「○才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2：④の面積は、下記の「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4：プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

## 2 対象地区の課題

作物の単価が安く、また毎年違うため収入が安定しない。後継者のいない・未定な担い手が多い。  
農地について、1筆ごとの面積が小さい、点在している、水・土壌・進入路等の条件が悪いため、借り手が見つからない。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

基盤整備を進める等、担い手が使いやすいように農地を整備することで、地域内外の担い手31人に農地を集積・集約化していく。

地域内の担い手で賄いきれない農地は、近隣地域の担い手に集積・集約化していく。

単価の高い園芸作物を導入し複合化を図る、地域の食味の良いお米を活かしブランド化を図るなど、収入増加に向けた取組により、担い手の確保を推進する。

注1： 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。